

分科会 10

精神障害者の立場から合理的配慮を考える

菅原正和・黒澤陽・渡辺亜美・橋本達志（北海道精神保健推進協会こころリカ・プロダクション）
矢部滋也・永井隼一（一般社団法人北海道ピアサポート協会）

精神障害は外から分かりにくい障害である。その精神障害当事者が発言する場を設け、合理的配慮について様々な視点から見解を得ることを目的とした。

1. 講義 合理的配慮についての共通理解

合理的配慮の基本的な考え方（双方向のやり取りであること）とアクセシビリティ（事前に準備する配慮）との違いなどを確認した。

2. ワールドカフェ方式の説明

今回のワークショップはワールドカフェ方式を採ったため、その目的と方法の説明を行った。

3. ワールドカフェ

1テーブル5、6人で、10島に分かれて話し合いをしてもらった。話し合いは3回に分けて席替えをしながら、多くの参加者の意見を知ることができるようにした。

1回目の話し合いは「本分科会での合理的配慮」、2回目は「お店などでの合理的配慮」、3回目は「会社・学校・事業所などでの合理的配慮」をテーマとして行った。

3回の話し合いの後、各テーブルの代表者に今回の話し合いの印象を発表してもらった。

参加者からの意見として、

「合理的配慮といっても人間関係が重要になることが分かった」

「合理的配慮をしてほしいと言った時にお互いのことをわかっていれば、円滑に対応しやすいのではないか」

「事業所側が一方的に用意した配慮はアクセシビリティであることが解った。当事者の要望を受けて事業所側が対話を始める事が正しい合理的配慮の形だ」

などの声が聞かれた。

参加者の多くは、積極的に話し合いで発言し、多くの意見、考え方を出し合うことができた様子であった。今回得た意見、考え方を持ち帰ってもらい、仲間とさらに深め合ってもらうことで本分科会の成功としたい。